

血漿蛋白—その病態と検査

血漿蛋白とは、広義には血漿中に存在する全ての蛋白質をいいますが、本特集では、従来からの慣用的な定義である、汎用機で測定できる濃度で存在するものについて、いくつかの視点で解説をいただきました。まず、基礎的なこととして、血漿蛋白がどのように産生され代謝されるか、コンパクトな解説をお読みください。血漿蛋白の血中濃度を評価するうえで大変重要な背景です。測定については、免疫学定量の最近の話題、普及しつつあるキャピラリー電気泳動を取り上げました。疾患マーカーとしては、腎機能評価のシスタチンCと栄養評価のトランスサイレチンを取り上げました。最後は、血漿蛋白が病因物質となる全身性アミロイドーシスのあらましです。血漿蛋白をめぐる臨床検査の知識をupdateいただければ幸いです。

(山田 俊幸)